

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 6 月 11 日現在

機関番号：37503

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2011

課題番号：21320115

研究課題名（和文）帝国・システム・海域ネットワーク：19 世紀以前のアジアにおける広域
地域史の再構築研究課題名（英文）Empires, Systems, and Maritime Networks: Reconsidering Supra-Regional
History in Pre-19th Century Asia

研究代表者

藤田 加代子（FUJITA KAYOKO）

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：90454983

研究成果の概要（和文）：

9 世紀から 19 世紀半ばの日本から東アフリカまでの海域アジア各地における、「帝国」とその内外の商業ネットワークが形成する広域的な地域秩序を比較した。とりわけ、求心的な大帝国の周縁に位置する諸国家・民族や交易ディアスポラに着目し、それらが広域政治・経済秩序にどう関わり、長期的にどのように変容するかを分析して、東・南シナ海域とインド洋海域での「帝国」支配と経済の関係のあり方の違いなどの諸点を明らかにした。

研究成果の概要（英文）：

This joint research was intended to provide a forum to compare and contrast the characteristics of and linkages between Asian empires and regional political and commercial networks in and around the East Asia maritime realm and the Indian Ocean from the 9th to the 19th centuries. Particular stress was placed upon examining the emergence and maintenance of empire-centred regional economic order, and the role of commercial and political networks in the creation and development of regional and state-level integration within empires. The interconnections among those regional economies and their impacts were also considered.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009 年度	5,300,000	1,590,000	6,890,000
2010 年度	4,100,000	1,230,000	5,330,000
2011 年度	5,000,000	1,500,000	6,500,000
年度			
年度			
総計	14,400,000	4,320,000	18,720,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・史学一般

キーワード：帝国、システム、ネットワーク、海域アジア、グローバル・ヒストリー

1. 研究開始当初の背景

本研究は、科学研究費共同研究「近代世界システム以前の諸地域システムと広域ネットワーク」(2004～2006年、研究代表：大阪大学大学院文学研究科教授 桃木至朗) など先行する諸研究プロジェクトで明らかになった前近代アジアにおける地域システムの性格に関する議論をさらに発展させ、日本を含むアジア史の視点からグローバル・ヒストリー研究の発展に貢献することを意図した。上記科研の成果は、世界初の海域アジア史 (maritime Asian history) の入門書であり、広範な和・中・韓・欧文献目録を収録した桃木責任編集『海域アジア史研究入門』(2008年3月、岩波書店)などを通じて公開されたため、日本語圏に限れば、中世～近代初頭のアジアの史的な地域システムをめぐる論点の整理と主要先行研究を網羅する文献データベースの共有という目標は、かなりの程度達成されたと言える。だが同時に、海域アジア史研究の大きな課題として、東・南シナ海域とインド洋というフィールド間の研究の懸隔、研究者同士の交流の薄さが残った。また、20世紀末に急速に進展したグローバル・ヒストリーや世界システム論といった隣接する諸研究分野と海域アジア史研究の本格的な議論も、緒に就いたばかりであった。さらに、アジアの言語で発表された優れた学の蓄積を英語圏の研究者といかに共有するかという問題が引き続き残されていた。

2. 研究の目的

(1) 西洋列強による本格的な植民地化以前の

アジアにおける「帝国」中心の広域政治・経済システムについて、近年の国内外での歴史学・歴史社会学研究の成果を整理する。

(2) さらに、中国商人・イスラーム商人やヨーロッパ重商主義勢力のネットワークに関する研究の成果を参照しつつ、前近代アジアの地域システムの生成・維持・解体にアジア間貿易 (intra-Asian trade) や遠距離交易 (long-distance trade) が果たした経済的・政治的役割を、文書・考古史料の検討と史跡調査を通じて検証する。

(3) 上記二点の作業に基づき、9世紀から19世紀中葉までのアジアの空間秩序を理論的に理解するべく、実証的な世界史研究と歴史社会学的世界システム分析の間で、比較地域システムに関する議論を行う。

(4) 以上の研究成果を、歴史学・歴史社会学・地域研究の研究者だけで独占するのではなく、歴史教育に反映させるためにはどのような方法が有効かを、メンバー全員で模索する。

3. 研究の方法

(1) 個人研究と現地調査

メンバー各人が19世紀中葉以前のユーラシア (特にインド洋から東シナ海域に至る大陸部と海洋アジア) 各地の「帝国」を取り上げ、その広域地域秩序の内部構造および周辺との関係を、歴史史料に基づいて検討する。また、実際にそれぞれのフィールドに入り、碑文・建築物・都市プランなどの調査を実施する。同時に、現地の研究者と意見交換をおこなう。

(2) 国内での定期的な研究会と国際ワークシ

ヨップの開催

海外の研究者を招聘する小規模なワークショップを定期的に日本国内で開催し、中心的な概念（「帝国」「ネットワーク」など）について、実証と理論の両面から議論する。メンバーはコメントの執筆・報告を通じて主講演と主体的に関わり、会合の成果をすみやかに *working paper* として公開する。また定期的にセミクローズド形式の研究会を開催し、メンバーの個別研究の成果を全員で共有する。

(3) 国際会議の開催と国際学会におけるパネル報告

助成期間を通じて、各年度に一回、大規模な国際学会においてセッションを組み、英語で研究成果を発信する。また、関心を同じくする他地域の研究者を集めて国際会議を主催する。それらの最終成果を海外の学術出版社から論文集として刊行する。

4. 研究成果

(1) 研究の内容面における成果と課題

①研究の論点と成果

中国海域とインド洋海域の比較：これまでの日本における海域アジア史研究では、東・南シナ海域を以て漠然と「海域アジア」を代表させてきた。本科研では、海外の研究者と協力して、中国海域とインド洋海域の比較対照をおこない、両海域の共通点と差異をある程度明確にすることができた。

例えば、アジアの代表的な大帝国（明とムガル帝国など）とその内外の商業ネットワークが組み合わさった広域的な地域秩序を比較することで、東・南シナ海域とインド洋海域では支配と経済の関係のあり方に明瞭な違いがあったことをみとめた。また、大帝国の周縁に位置する国々が帝国の求心的な外交・貿易の体制や理念を取り入れて「小帝国」化する例を、中国海域とインド洋海域のそれ

ぞれに見出した。さらに、交易ディアスポラ（南・東シナ海域に進出したイスラーム商人や、東アフリカ沿岸部のカッチー商人など）の分析を通じて、彼らの地域間交易・遠距離交易ネットワークと「帝国」の相互的関連のあり方を比較した。

グローバル・ヒストリーと海域アジア史研究の視座：近年のグローバル・ヒストリー研究の焦点の一つである、西洋中心史観やアジアの大国（中国・インド）中心史観をどう乗り越えるかという課題について、地域大国の周縁的存在である貿易商人・移民・マイノリティ・奴隷あるいは周辺諸国に関する実証的研究をベースに、グローバル経済史研究者や社会学者と議論した。

以上の研究成果は、本科研の *working paper series* として一部が発表済みであり（下記を参照）、最終的には英文論文集 (*tentative Empires and Networks: Maritime Asian Experiences from the 9th to 19th Centuries*) として 2013 年度中に刊行される予定である。同書は、「帝国」中心的な広域政治・経済秩序が存在した（あるいは不在であった）世界の他の地域をフィールドとする研究者に、比較可能な新しい時空モデルを提供し、海域史やグローバル・ヒストリー研究の進展に寄与するであろう。

②今後の課題

歴史史料に基づく実証的な研究に比べ、社会学理論との学際的な対話を十分に成し得なかった事が、反省点としてあげられる。たとえば領域・時間と政治経済体制に関する重要な概念（「近世」「帝国」「ネットワーク」など）について、徹底した議論をおこなう場をもつことができなかった。この課題に対しては、本科研を通じて育てた研究ネットワークを活かして、新しいプロジェクトを立ち上

げて長期的に取り組む必要がある。

(2) 国際的な研究成果の発信

① 英語による研究過程の迅速な共有

本科研の最大の特色の一つは、定例研究会を含めたほとんどの会合を、英語を共通語として実施したことである。比較的小規模の国際ワークショップに海外の研究者を招き、最新の研究動向について若手院生から中堅の研究者までが丁寧な議論を尽くせる環境を継続して設けたのは、研究の深化に大いに役立った。

また、研究の成果をすみやかに国内外の学界に公開できるように本科研独自の working paper series (*Empires, Systems, and Maritime Networks: Reconstructing Supra-Regional Histories in Pre-19th Century Asia*) を立ち上げ、助成期間内に 6 冊を刊行することができた。下記は既刊の一覧（号数と特集タイトル）である：

Vol. 1 (March 2010), *Asian Empires and Maritime Contacts before the Age of Commerce*

Vol. 2 (July 2010), *Cycles of Silver in Chinese Monetary History*

Vol. 3 (February 2011), *Asian Empires and Maritime Contacts before the Age of Commerce II*

Vol. 4 (December 2011), *Teaching and Researching Global History in a World of Nations*

Vol. 5 (December 2011), *New Perspectives of Global Economic History*

Vol. 6 (March 2012), *Papers from the Association for Asian Studies Annual Conference (Toronto, Canada, 15-18 March 2012)*

② 国際会議における研究成果の報告と出版

本科研と Nalanda-Sriwijaya Centre, Institute of Southeast Asia Studies, National University of Singapore (国立シンガポール大学東南アジア研究所ナランダ・シュリーヴィジャヤ・センター) の共催により、Workshop on Empires and Networks: Maritime Asian Experiences 9th to 19th Centuries (Singapore, 2011 年 2 月; 詳細は <http://web1.iseas.edu.sg/?p=2022>) を実施し、全メンバーが個別報告をおこなった。インド洋交易圏を専攻する研究者に人脈のある研究所と組んだため、本科研のめざす中国海域とインド洋海域の交渉史と比較という大テーマにふさわしい報告者をそろえ、自身の濃い議論をすることができた。また、アジア世界史学会第一回国際会議 (AAWH, 大阪, 2009 年 5 月) と世界アジア学会年次大会 (AAS, Toronto, Canada, 2012 年 3 月) という二つの国際会議において、本科研メンバーが中心となって複数のセッションを実施し、各自が研究成果を報告した。これらの国際会議で発表された研究報告をもとに、海外学術出版社から論文集を出版するための準備を進めている (2012 年 6 月現在)。

(3) 大学におけるグローバル・ヒストリー研究と歴史教育の接続

日本西洋史学会第 60 回大会 (別府大学、2010 年 5 月) において研究代表者が小シンポジウム 'Global History under Globalisation: Current Issues in Research and Education' を組織し、外部の専門家を招聘して米・英・日本の多文化・多国籍な高等教育機関における歴史教育と研究の現状と課題の検討をおこなった。このシンポジウムの基調講演は、英語の原文に和文対訳を付し、本科研 working paper series の第 4 号として出版された。

(4) 研究ネットワークの国際化に関する成果

先行する科研研究等から引き継いだ研究者のネットワークをさらに拡充することができた。国立シンガポール大学東南アジア研究所と国際ワークショップを共催したことで、同研究所と関係の深いインド洋をフィールドとする研究者らと連携する機会を得た。今後の論文集刊行だけで終わりとせず、さらに様々な形で国際的な研究交流を進める土台としたい。

(5) 若手研究者の育成

2名の若手研究者（申請時は博士課程研究生・特任研究員）に研究協力者としてメンバーに加わってもらった。研究分担者らと同等に研究をおこない、報告をするばかりでなく、国際会議でセッションの代表を務めるなど成長著しく、今後の海域史、グローバル・ヒストリー研究をリードする人材として期待している。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計44件）

①大橋 厚子、東南アジア研究とともに危機の時代を生き延びるために—After Victor Lieberman—、東南アジア—歴史と文化—、査読有、41巻、2012、85-105。

②鈴木 英明、サイド・ビン・スルターン没後のアフリカ大陸東部領土相続をめぐる経緯—奴隷流通構造における沿岸部スワヒリ社会の機能変化に関する追論—、スワヒリ&アフリカ研究、査読有、22巻、2011、1-24。

③田口 宏二郎、南京国民政府時期の土地登記と「他項権利」（2）、近代東アジア土地調

査事業研究ニューズレター、査読無、4巻、2009、45-63。

④中島 楽章、14-16世紀、東アジア貿易秩序の変容と再編—朝貢体制から1570年システムへ—、社会経済史学、査読有、76巻4号、2011、3-26。

⑤マニング・パトリック、岡本哲明・後藤敦史訳、グローバル・ヒストリーは国家の枠をどう超えるか—その教育・研究の現状と展望—、Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 4. 2011. 8-13.

⑥向 正樹、モンゴル時代の世界の一体化と交易ネットワーク、大阪大学歴史教育研究会成果報告書シリーズ、査読無、6巻、2012、17-44。

⑦桃木 至朗、現代日本における歴史学の危機と新しい挑戦、歴史科学、査読無(依頼原稿)、197巻、2009、1-12。

⑧山下 範久、「平滑空間」と「長期持続」のあいだ（ポスト・リオリエント第六回）、季刊 at プラス、査読無、1号、2009、142-155。

⑨Buell, Paul D. Mongols in Vietnam: End of One Era, Beginning of Another. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 3. 2011. 1-14.

⑩Do, Truong Giang. The Port of Thi Nai (Champa) in the East Asian Maritime Trade Network (10th-15th Centuries). Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 3. 2011. 15-22.

⑪ Flynn, Dennis O. and Marie A. LEE. Hydraulic Metaphor: A Model of Global and Local Connectivity. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 5. 2011. 1-32.

⑫ Flynn, Dennis O. Link-Unit-of-Account versus Ratio-Unit-of-Account Moneys: Seventeenth-Century Dutch Mint Policy. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 5. 2011. 33-62.

⑬ Fujita, Kayoko. The Tokugawa Shogunate as a Small Empire in Northeast Asia: Changing Commodity Flows and the Spatial Structure of the Japanese Economy, 1600-1850. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 172-184.

⑭ Manning, Patrick. Teaching and Researching Global History in a World of Nations. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 4. 2011. 1-7.

⑮ Mukai, Masaki. Trade Diaspora at the Periphery of Empire: Influx of Central Asian Muslims in Fujian Coastal Region during the Yuan Period. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 3-23.

⑯ Mukai, Masaki. Contacts between Empires and Entrepôts and the Role of Supra-regional Network: Song - Yuan - Ming Transition of the Maritime Asia, 960-1405. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 1. 2010. 1-24.

⑰ Momoki, Shiro. Local Rule of Đại Việt under the Ly dynasty: Evolution of a Charter Polity after the Tang-Song Transition in East Asia. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 118-150.

⑱ Momoki, Shiro. Nation and Geo-Body in Early Modern Vietnam: A Preliminary Study through Sources of Geomancy. Southeast Asia in the 15th Century and the China Factor, ed. Geoff Wade and Sun Laichen, Singapore: Singapore University Press. 査読有. 2010. 126-153.

⑲ Nakajima, Yoshiaki. Another Altan Khan in Maritime Asia?: The Toyotomi Regime in the Transformation of East Asian Trade Order. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 151-171.

⑳ Ohashi, Atsuko. World Silver Flows and the Formation of the Forced Cultivation System in Java: 1800-1840. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 43-63.

(21) Ohashi, Atsuko. Global Economy and the Formation of the Cultivation System in Java, 1800-1840: A Preliminary Research. Forum of International Development. 査読有. Vol. 42. 2012. 85-104.

(22) Suzuki, Hideaki. Standing on the Borderline: The Indian Merchants in the Nineteenth Century East Coast of Africa. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 24-42.

(23) Taguchi, Kojiro. Empire as a Constructed

Phenomenon: The Grand Canal and the Capital Region during Ming China (1368-1644). Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 89-117.

(24) Von Glahn, Richard. Monetary Demand and Silver Supply in 19th Century China. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 5. 2011. 67-85.

(25) Von Glahn, Richard. Cycles of Silver in Chinese Monetary History. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 2. 2010. 1-67.

(26) Yamashita, Norihisa. Unthinking Hegemonic Cycles. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 6. 2012. 64-87.

(27) Yamauchi, Shinji. A Chinese Settlement in Japan from the 11th to the 13th Centuries: An Introduction to “Tōbō” in Hakata. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 1. 2010. 27-42.

(28) Yokkaichi, Yasuhiro. The Eurasian Empire or Chinese Empire?: The Mongol Impact and the Chinese Centripetal System. Empires, Systems, and Maritime Networks Working Paper. 査読無. Vol. 3. 2011. 23-34.

[学会発表] (計 50 件)

① Fujita, Kayoko. The Tokugawa Shogunate as a Small Empire in the Realm of East Asia: Changing Commodity Flows and the Spatial Structure of the Japanese Economy, 1550-1850. International Workshop on Empires and

Networks: Maritime Asian Experiences 9th to 19th centuries. Feb 2011. Institute of Southeast Asian Studies (ISEAS), Singapore.

② Fujita, Kayoko. The Changing Culture of Silk in the Tokugawa Economy: On Foreign Trade and Import Substitution, ca.1550-1850. Historical Systems of Innovation: The Culture of Silk in the Early Modern World (14th-18th Centuries). Dec 2010. Max Planck Institute for the History of Science, Berlin, Germany.

③ Fujita, Kayoko. Teaching Histories of Globalisation in the Post-Colonial Asian Pacific Region. 60th Annual Meeting of the Japan Society of Western History. May 2010. Beppu University, Beppu, Japan.

④ Momoki, Shiro. Local Rule of Đại Việt under the Lý dynasty: Evolution of a Charter Polity after the Tang-Song Transition in East Asia. AAS. Mar 2012. Sheraton Centre Toronto Hotel, Toronto, Canada.

⑤ Momoki, Shiro. New Lights on the Charter Polity of Dai Viet: A Comparative Approach with Goryeo and Other Small Empires in Southeast and Northeast Asia. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

⑥ Mukai, Masaki. Trade Diaspora at the Periphery of Empire: The Case of Muslim Immigrant-Officials in Fujian Coastal Region during the Yuan Period. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

⑦ Nakajima, Gakusho. Controversies Concerning the Revival of Sino-Japanese Tributary Trade during the Japanese Invasion of Korea. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

⑧ Ohashi, Atsuko. World Silver Flows and the Formation of the Forced Cultivation System in Java: 1800-1840. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

⑨ Ohashi, Atsuko. Similarities in Socio-Economic Conditions under the VOC and Early Modern Empires: From the Perspective of People in West Java. AAWH. May 2009. Osaka University Nakanoshima Center.

⑩ Suzuki, Hideaki. Dual Protection on the Eve of Pax Britannica: A Case Study of Indian Residents along the East African Coast. AAS. Mar 2012. Sheraton Centre Toronto Hotel, Toronto, Canada.

⑪ Taguchi, Kojiro. The Segmentation of the Empire?: The Logistics Problem during the Ming Era. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

⑫ Yamashita, Norihisa. Unthinking Hegemonic Cycles: Early Modern Empire and Embedded Liberalism. International Workshop on Empires and Networks. Feb 2011. ISEAS, Singapore.

[図書] (計 4 件)

① 桃木 至朗、大阪大学出版会、中世大越国家の成立と変容—地域世界の中の李陳時代ベトナム史—、2011、473。

② 桃木 至朗、大阪大学出版会、わかる歴史、面白い歴史、役に立つ歴史—歴史学と歴史教育の再生をめぐって—、2009、270。

③ 中島 楽章 (郭万平・高飛訳)、江蘇人民出版社、明代鄉村糾紛与秩序：以徽州文書为中心、2010、308。

④ 中島 楽章、山川出版社、徽州商人と明清中国 2009、90。

[産業財産権]

○出願状況 (計 件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

出願年月日 :

国内外の別 :

○取得状況 (計◇件)

名称 :

発明者 :

権利者 :

種類 :

番号 :

取得年月日 :

国内外の別 :

[その他]

ホームページ等

6. 研究組織

(1)研究代表者

藤田 加代子 (FUJITA KAYOKO)

立命館アジア太平洋大学・アジア太平洋学部・准教授

研究者番号：90454983

(2)研究分担者

桃木 至朗 (MOMOKI SHIRO)

大阪大学・コミュニケーションデザイン・
センター・教授

研究者番号：40182183

中島 楽章 (NAKAJIMA YOSHIAKI)

九州大学・人文科学研究科 (研究院)・准
教授

研究者番号：10332850

田口 宏二郎 (TAGUCHI KOJIRO)

追手門学院大学・国際教養学部・准教授

研究者番号：50362637

山下 範久 (YAMASHITA NORIHISA)

立命館大学・国際関係学部・教授

研究者番号：90333583

大橋 厚子 (OHASHI ATSUKO)

名古屋大学・国際開発研究科・教授

研究者番号：80311710

(H21-22:連携研究者→H23)

向 正樹 (MUKAI MASAKI)

大阪大学・文学研究科・招聘研究員

研究者番号：10551939

(H22→H23：連携研究者)

(3)連携研究者